

申請者	学科名	造形デザイン学科	職名	助教	氏名	榎尾 聡美
調査研究課題	独自技法による染色造形表現研究					
調査研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表分担者					
調査研究実績の概要	<p>現代はバイオテクノロジーや人工知能などの発達により人間が人間であることの意味が改めて問われる時代であると言える。人工知能が囲碁で人間に勝利するのは数年先のことと考えられていたがgoogleのDeepMindが開発した「AlphaGo」は平成28年3月に公開の場でプロの棋士に勝ち越した。テクノロジーは急速に発展しておりシンギュラリティー（技術的特異点）の到来が刻一刻と近づいているようにも感じられる。このような時代において美術は人間存在の意味について考えるきっかけを与える役割を担っている。平成27年9月から平成28年3月まで金沢21世紀美術館ではアーティストユニットBCLが架空の歌姫、初音ミクに遺伝子と細胞を与え生命と非生命の境界を探る展示を行った。本研究では同時期に同会場の長期インスタレーションルームにおいて作品展示を実施し、現代における人間の存在の意義について研究及び作品制作を行った。平成28年1月には岡山県倉敷市の吹上美術館にて、金沢21世紀美術館では実現することのできなかった鑑賞者が作品に触れ体感する空間を作り上げた。また、国内で開催されている幅広いジャンルの美術作品の調査を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 展覧会名 アペルト2 榎尾聡美 生命の内側にひそむもの ■ 会期 平成27年9月19日～平成28年1月17日 ■ 会場 金沢21世紀美術館 長期インスタレーションルーム ■ 主催 金沢21世紀美術館 [公益財団法人金沢芸術創造財団] ■ 概要 アペルトとは金沢21世紀美術館の若手作家を中心に個展形式で紹介する展覧会シリーズ。幅9m×奥行15m×高さ6mの空間に染色布によるインスタレーション作品を展示した。 1月17日にはレクチャー「間を染める」を金沢21世紀美術館レクチャールームにて実施した。 					

アペルト2 榎尾聡美 生命の内側にひそむもの 会場風景



- 展覧会名 榎尾聡美展 -粒子-
- 会期 平成28年1月30日～4月24日
- 会場 吹上美術館
- 概要 美術館の1階の空間全体を一つの作品として展示を行った。下側をクッション状に加工した染色布を天井から変形した半円状に吊るし、内側からも外側からも作品を鑑賞できるような空間に仕立てている。鑑賞者はクッション状の部分の中に入り布の柔らかさや温かさを体感する。
会期中には以下のイベントを実施した。
2月28日 レクチャーvol.5 榎尾聡美「私と布と粒子の話」
3月27日 レクチャーVol.6 佐々木千恵「”私”はどこにいるのか？
-スピリチュアリティから榎尾作品をみる」
4月17日、24日 ワークショップ「にじみと遊ぶ」

調査研究実績
の概要

榎尾聡美展 -粒子- 会場風景



成果資料目録

朝日新聞掲載記事 平成27年11月23日発行